

講義名	公共経済論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	竹内 信行		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>公共経済論とは、政府などの公共機関が行う経済活動を分析する学問です。政府の経済活動は、道路整備などの公共事業だけにとどまらず、各種の規制政策、社会保障政策など、多岐にわたります。そして、私たちは新聞やテレビなどのメディアを通して、これら政府の経済活動に対する様々な批判や意見を目や耳にします。本講義では、政府の果たす役割やその必要性を経済学の視点から学び、みなさんが「政府による様々な経済活動の狙い」や「その評価」について正しく理解・判断できるようになるための基礎知識の習得を目指します。</p> <p>取り扱う内容の多くはミクロ経済学の知識を基にしており、複雑で難解な面もありますが、丁寧な解説を心がけ、楽しく学んでいけることを目標にします。</p>

到達目標
<p>公共経済学の基本的な知識の習得を目指します。具体的には以下の諸点を目標とします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要曲線、供給曲線を用いて、市場メカニズムやその効率性について説明できるようになる ・市場の失敗について学び、様々な規制や公共政策の役割を理解する ・公共財の特色や、その供給の仕組みについて理解する

提出課題
<p>毎授業、その日の学習内容に関する確認問題や授業に関する感想等を記載する確認シートを出題します</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>確認シートのでき具合や回収した感想・質問は、講義内で講評したり講義計画の修正の参考にしたりします</p>

評価の基準
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験：60% ・日常点（確認シートの提出状況などを評価）：40%

履修にあたっての注意・助言他
<ul style="list-style-type: none"> ・履修にあたり、ミクロ経済学（できればマクロ経済学も）を既修済であることが望ましい ・「バツと聞いて分かる」というよりは「じっくり考えてから分かる」ことが多い学問です。そのため、授業内容の理解には「根気」と「努力」が必要になります ・授業の内容上、数式や図表を用いることがあります。それにともなって必要となる数学については適宜、説明を行います ・毎回の授業は、連続ドラマのようにそれまでの授業内容を前提とした「続き物」になっています。そのため、授業内容が途中で分からなくなると、授業自体がつまらなく辛い時間になってしまいます。大学の講義は皆さんにとって初めて聞く内容が大半であり、最初から分からないのは当たり前です。恥ずかしがらずに積極的に質問をし、疑問点は早めに解消していきましょう

教科書
<ul style="list-style-type: none"> ・使用しない。

プリント資料及び参考文献
<p>ハンドアウトを配布するため、教科書は特に必要ありません。しかしハンドアウトだけでは不安な方は、下記にあげる参考文献の中から自分にあったものを用意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年。 ・安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。 ・上村敏之『公共経済学入門』新世社、2011年。

授業計画
<p>第1回 公共経済学とは</p> <p>第2回 ミクロ経済学の復習 (1) 需要曲線と消費者余剰 第3回 ミクロ経済学の復習 (2) 供給曲線と生産者余剰 第4回 ミクロ経済学の復習 (3) 市場メカニズムと余剰分析</p> <p>第5回 政府による価格政策の効果 第6回 政府による規制の効果 第7回 市場の失敗</p> <p>第8回 自然独占と価格規制 第9回 外部性 (1) 外部性とは？ 第10回 外部性 (2) コースの定理 第11回 外部性 (3) 波及効果による外部性 第12回 公共財 (1) 公共財の性質 第13回 公共財 (2) 公共財の最適供給 第14回 情報の非対称性</p> <p>第15回 民主主義と社会的思想決定</p> <p>※ 授業予定の消化より受講生の理解の方を優先するため、授業計画通りに進まない場合もありますが、あらかじめご了承ください</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>授業内で使用したハンドアウトや配布する確認シートを用いて、しっかり復習してください（週当たり4時間程度）。特に、授業等を通して人から教えてもらっただけでは「分かった気」になってしまい、いざという時に学習した事を生かすことができません。内容をしっかり理解するには「その内容を他の人に説明できるようになる」ことを目指して復習することが大切です。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>使用した教材はすべて RYUKA Portal で順次、公開していきます。授業の復習などに活用してください</p>

実務経験の有無及び活用

備考
<p>ミクロ経済学やマクロ経済学の応用科目であるため、内容は若干難しくなります。しかし、根気と努力をもって取り組み、内容を理解できるように工夫しながら講義をすすめていきます。</p>